第73号
2026.8

安心のオンライン医療通訳

medi-way 医療通訳だより

Medi-Way 医療通訳者紹介　Vol.36　　スペイン語担当　ユウさん

◆なぜ医療通訳者になった？

中南米で長期滞在していた頃に色々と苦労した経験をもとに、日本在留外国人のスペイン語の生活相談の通訳をしていた時期がありました。相談内容には医療に関するものも多く、また外国人の妻の通院に付き添い通訳する機会も増えたことからも、一念発起して大阪大学の医療通訳養成コースを受講。その後も医療の勉強に終わりはありません。東和通訳センターに入ってからは、求められる通訳の質や責任の重さを実感していますが、その分大きなやりがいを感じながら取り組んでいます。

◆今まで医療通訳に携わってきて一番嬉しかったことは？

通訳中は「こちらの言ったことが相手に伝わっているか」「訳語や表現は適切だったか」と頭の中で自問自答の繰り返しで、極度の緊張状態です。終わってホッと一息つく瞬間、患者さんや医療者の方から不意に「ありがとう」と感謝の言葉をいただくことが時々あります。その時がやはり何より嬉しいです。

◆より良い通訳をするために心掛けていることは？

頭で状況をイメージできないとうまく言語化できないので、まずは集中して聞き、伝える内容の理解に努めています。過去の通訳対応が継続されることも多いので、待機中は録画を見て本番に備えます。先輩方の対応はとても参考になりますし、医療知識や最近の動向を知るために大変有効な学習になります。また、出勤時は口慣らしのためにシャドーイングをいつも行っています。（ブツブツつぶやきながら歩いているので周囲には変に思われているかも…）



台湾の「鬼月」をご存じですか？



医療通訳士は言語だけではなく、患者さんが大切にしている文化や価値観を理解しておく必要があります。

台湾では旧暦七月を「鬼月」と呼び、亡くなった方の魂が冥界から戻り、家族やゆかりの場所を訪れると信じられているため、家や会社の前には供え物が並べられ、感謝と敬意を込めて魂をお迎えします。台湾出身の通訳士も、幼い頃は家族とともにこの時期を過ごし、街に並ぶ色とりどりの供え物を眺めるのを楽しみにしていました。

沖縄出身の通訳士によると、沖縄の旧盆ともよく似ているとのこと。文化や習慣は違っても、亡くなった人を思い、家族とのつながりを大切にする気持ちは共通しています。医療通訳士としてこうした背景を丁寧に伝えることで、医療従事者と患者さんが信頼関係を築く手助けとなると感じています。

今月のトピックス





世界の夏から知る、暑さへの向き合い方





まだまだ厳しい暑さが続いています。英語医療通訳士も先日、長時間炎天下にいたわけではなかったのですが、熱中症になってしまいました。睡眠不足やストレスが影響したのか、頭痛やほてり、吐き気に悩まされ、暑さだけでなく、その日の体調も熱中症に影響することを実感しました。今年はヨーロッパもたびたび熱波に見舞われ、40℃を超える暑さとなった地域もありました。英語通訳士がイタリアを旅行した際には、滞在先にエアコンがなく、窓を開けて過ごしたため、暑さだけでなく蚊にも悩まされたそうです。。。

幼少期を母国のペルーで過ごしたスペイン語医療通訳士は、海へ出かける前には必ず日焼け止めを塗っていました。それでも肩がヒリヒリするほど日焼けをしたこともありましたが、家族や親戚と過ごした夏は、今でも特別な思い出です。

一方、韓国語医療通訳士からは、韓国では熱中症などで体調を崩した際、点滴を受けることが身近に感じられています。通訳士自身も日本で点滴を希望したところ、「そこまでは必要ありません」と言われ、驚きました。医療通訳の現場でも、韓国の患者さんから点滴を希望される場面があります。そこには、患者さんがこれまで母国で経験してきた医療や治療に対する考え方が影響していることがあります。同じ夏でも、気候や暮らし方、暑さへの対処法、そして医療に対する考え方は国や地域によってさまざまであることを改めて気づかされます。

株式会社 東和エンジニアリング
東和通訳センター　TEL: 06-6292-8568
□東和通訳センター　〒530-0015 大阪府大阪市北区中崎西4-2-27
e-mail：tic@towaeng.co.jp